

# バスケットボール競技における競技力向上について

バスケットボール専門部 伊澤 暁（県立草加西高等学校）

## 1. 高体連バスケットボール専門部による競技力向上事業

- ① 指導者講習会・・・5月顧問総会（高校顧問対象）、  
7月上旬（ミニ・中学校・高校・一般の指導者対象）  
各支部（ミニ・中学校・高校・一般の指導者対象）  
※講師は大学監督や実績のある指導者、トレーナーや栄養士などさまざま
- ② 4支部大会・・・2月中旬に東西南北4支部それぞれ選抜チームをつくり、強化部中心に指導者の育成と選抜選手への強化練習会を開催

## 2. 一般社団法人埼玉県バスケットボール協会による競技力向上事業

- ① ジュニアアスリート育成授業（中高合同強化事業）
  - ・U-15技術講習会・・・7月上旬、国体少年少女スタッフによる技術指導
  - ・U-15・16技術講習会・・・9月23日（秋分の日）、強化委員による技術指導
    - （1）埼玉県強化指定選手（25名）AT委員会によるトレーニング講習含む
    - （2）各支部強化指定選手（県の強化指定選手以外の支部選抜選手）
  - ・U-16・17強化合宿・・・県新人大会1位2位を除くチームから選抜選手を選考し、埼玉県選抜チームとして強化練習を行う。
  - ・中高合同強化練習会・・・県新人大会1位2位と選抜チーム、U-14ジュニアオールスター選抜チームとの強化練習試合
  - ・埼玉カップ・・・4月上旬2日間、県新人大会1位2位と選抜チームが参加。  
全国各地から強豪校を招待し、強化試合を行う。  
男子：県外9チーム、埼玉県内3チーム  
女子：県外6チーム、埼玉県内3チーム
- ② U-13・14ジュニアキャンプ
  - ・毎月1回、県強化指定選手を対象に、強化練習会を行っている。  
講師は県エンデバー委員、高校指導者などで、高校会場の時には高校生との合同練習を行う。
  - ・11月に長野遠征、2月に関東近県交流会に参加。
  - ・3月に行われる都道府県対抗ジュニアオールスター大会に向けての強化練習会。
- ③ 国民体育大会壮行試合
  - ・8月12日を「埼玉県バスケットボールの日」（仮）とし、U-12男女対抗試合、U-15男女対抗試合、大東文化大学対筑波大学、埼玉県少年女子対成年女子、埼玉県少年男子対成年男子の試合を埼玉県代表チーム国体壮行試合として行う。

### 3. まとめ

バスケットボール競技は競技人口も多く、ほとんどの高校で部活動が盛んである。高校においての指導はほとんどが部活動顧問の教員に任されており、外部コーチなどはまだ少ない。中学校においても同様で、顧問への負担が大きく、専門も少ない上に練習できる時間も少ない。このままでは日本の競技レベルが下がるのは明らかであるので、JBA（日本バスケットボール協会）はユース世代（18歳以下）に対して、世界基準のバスケットボールを構築させ、国内で活気のあるバスケットボール文化を確立させようと、ユース育成方針を固めた。（まだ始まったばかりであるが・・・）

埼玉県においては、過去にはミニも中学校も高校も日本のトップレベルの成績を上げたこともあり、バスケットは盛んである。しかし、小学生のミニバスケットボールは、U-12すなわち6年生のみ県全体で選抜選手に対しての強化事業がなされるが、その前の年齢に競技力向上について事業を行っているかといえば、現状は各ミニバスケットボールチームの指導に任されている状況にある。指導者講習は年に何回かされているものの、指導者の多くは年配の方が多く、最新のルールや技術指導ができておらず、古い体質でいつまでも同じ指導を行っているチームが多い。JBAがU-12に対して要求する指導法は、ほとんど浸透していない。

中学生になると、U-13・U-14の強化事業は盛んになる。各支部（県内11支部）で選抜された強化指定選手を各支部で指導し、県全体の選考会を開き、強化指定選手25名を選考して、毎月強化指導を行っていく。中学校での部活動指導には制約があるので、クラブチームなどの学校を超えた組織に所属して活動している選手が増えてきた。ただし、U-15（中学3年生）となると、引退や受験期によって練習する機会が極端に減り、強化が停滞する。この時期にクラブチームで活躍する優秀な選手は県外に流出し、埼玉県の強化からは遠のいてしまう。県協会はこの時期のU-15に対する強化指導を充実させようとするのだが、高体連からは受験生への接触は避けるように指示されるという板挟みの状態となる。

高校生になると、進学先の指導者による強化がほとんどとなるが、国体に向けての強化を中心に、県協会や高体連専門部から強化指導が行われる。現行の規定で、チームにはコーチライセンスを取得しているコーチ（顧問）が必要であるので、ライセンス取得時に指導法に関する講習も受けている。

U-16（高校1年生）だけの強化練習会があり、冬にはU-17（高校2年生）を中心としたU-16・17の各支部による強化練習会が1か月ほど行われる。U-18（高校3年生）になると関東大会予選やインターハイ予選、ウインターカップ予選と大会が連続して行われるため、県全体の強化は事業はそれらが終わった秋に国体に向けて行われる。今後は国体の少年少女の参加資格年齢がU-15・16・17（早生まれ）となるため、強化の仕方も変化してくる。高校と中学校の連携がより一層密にしなければならなくなり、U-15・16の強化が課題となってくる。U-15は部活動引退と受験期間の問題があり、U-16は高校入学直後は試合経験が少なくなるのが通常なので、チーム事情とは別に強化していかなければならない。これからは埼玉県だけでなく、日本全体で直面する問題を解決すべく、U-12からではなくもっと下のアンダーカテゴリーから指導・発掘をし、日本全体の強化となるようにユース育成方針に従って進めていくよう、今後に期待するものである。